



カリン・アカネ・ジョディの
3人に襲い掛かってくる
大量のSCの群れ。
果たして彼女達の
運命やいかに…

基本CG・7枚
本編差分・77枚
その他差分・116枚

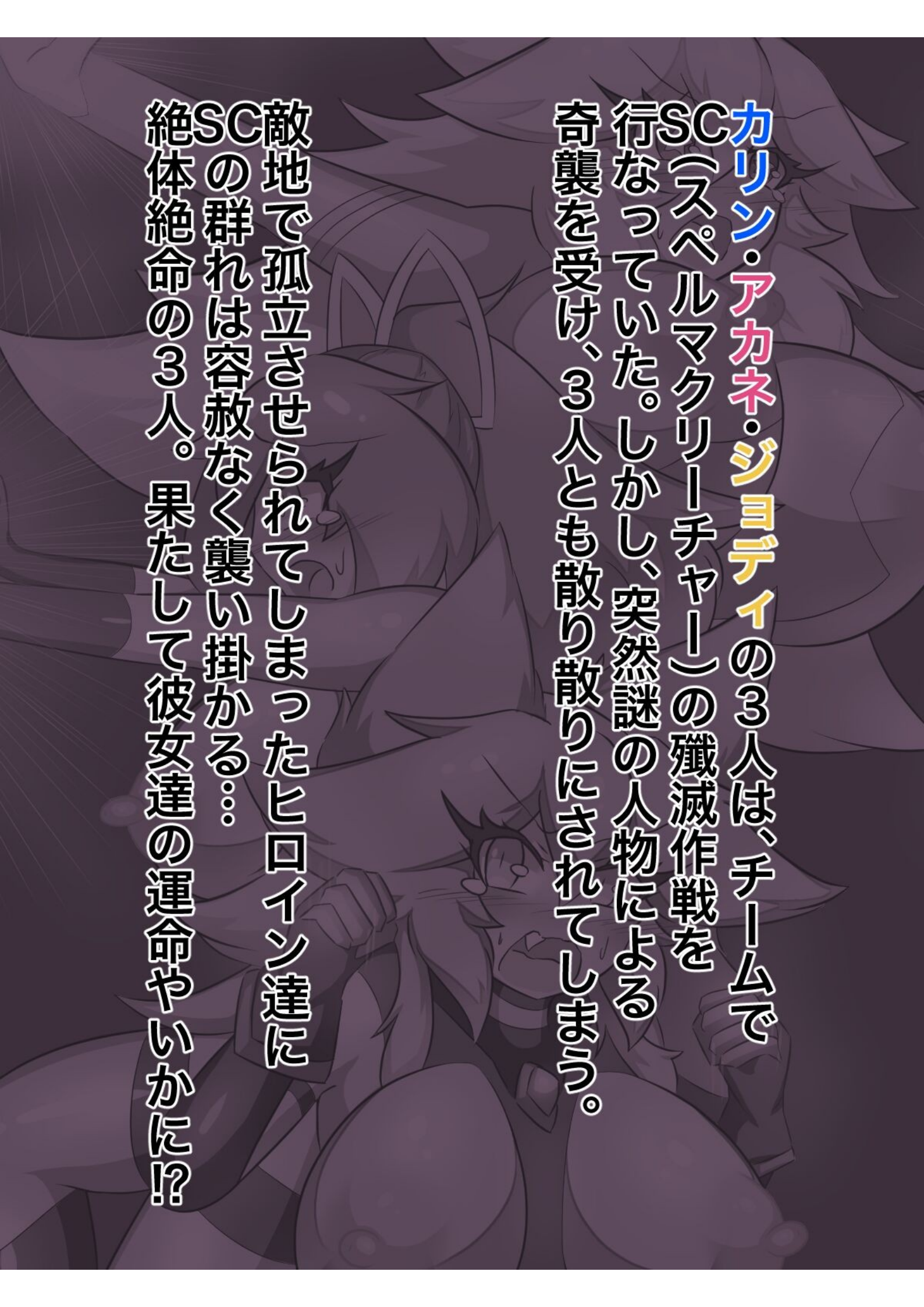
合計・200P

ジュエルヒロインズ

敗北ファイル

2

エデンの刺客・コレクターの罠



カリン・アカネ・ジョディの3人は、チームでSC（スperlマクリーチャー）の殲滅作戦を行っていた。しかし、突然謎の人物による奇襲を受け、3人とも散り散りにされてしまう。

敵地で孤立させられてしまったヒロイン達にSCの群れは容赦なく襲い掛かる…
絶体絶命の3人。果たして彼女達の運命やいかに!?

謎の襲撃者によって
孤立させられてしまったカリン。
予想外の事態に焦る彼女は
地面からの不意打ちに反応できず、
クリムゾンに下半身を腕ごと飲み込まれ
拘束されてしまった。

すでにエナジーを消耗し、
単純な腕力による抵抗しかできない
今のカリンでは、この
拘束からは抜け出せない。
そんな彼女の胸に、
二本の触手が近づいてきた…



「くそっー! いらっ、
いきなり地面から...!」

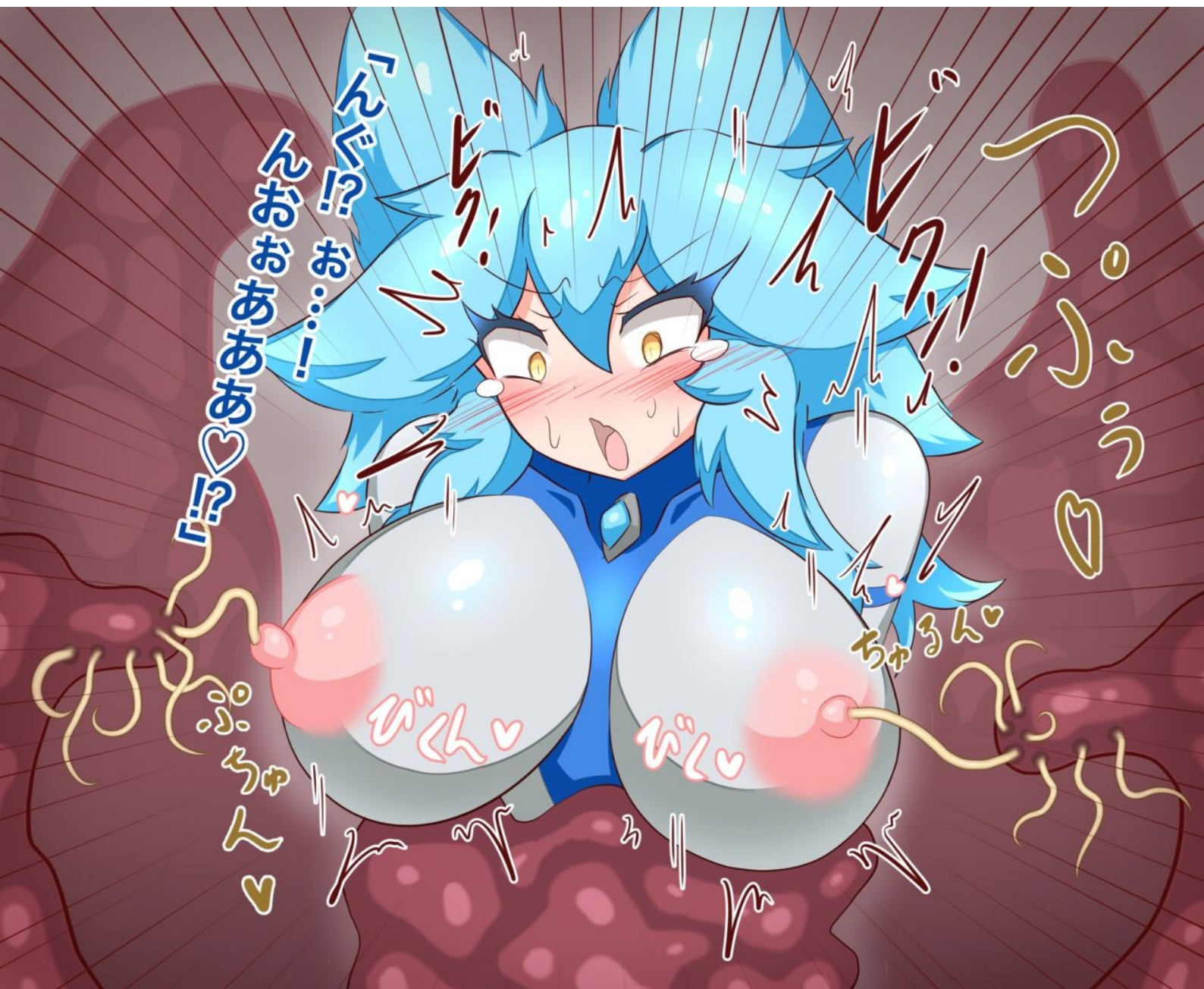
「ぐっ、うう! んん!!
だ、ダメだ... 解けねえ...!」

ぷん♡
ぎゅ...

ぷん♡
ぐゅ...

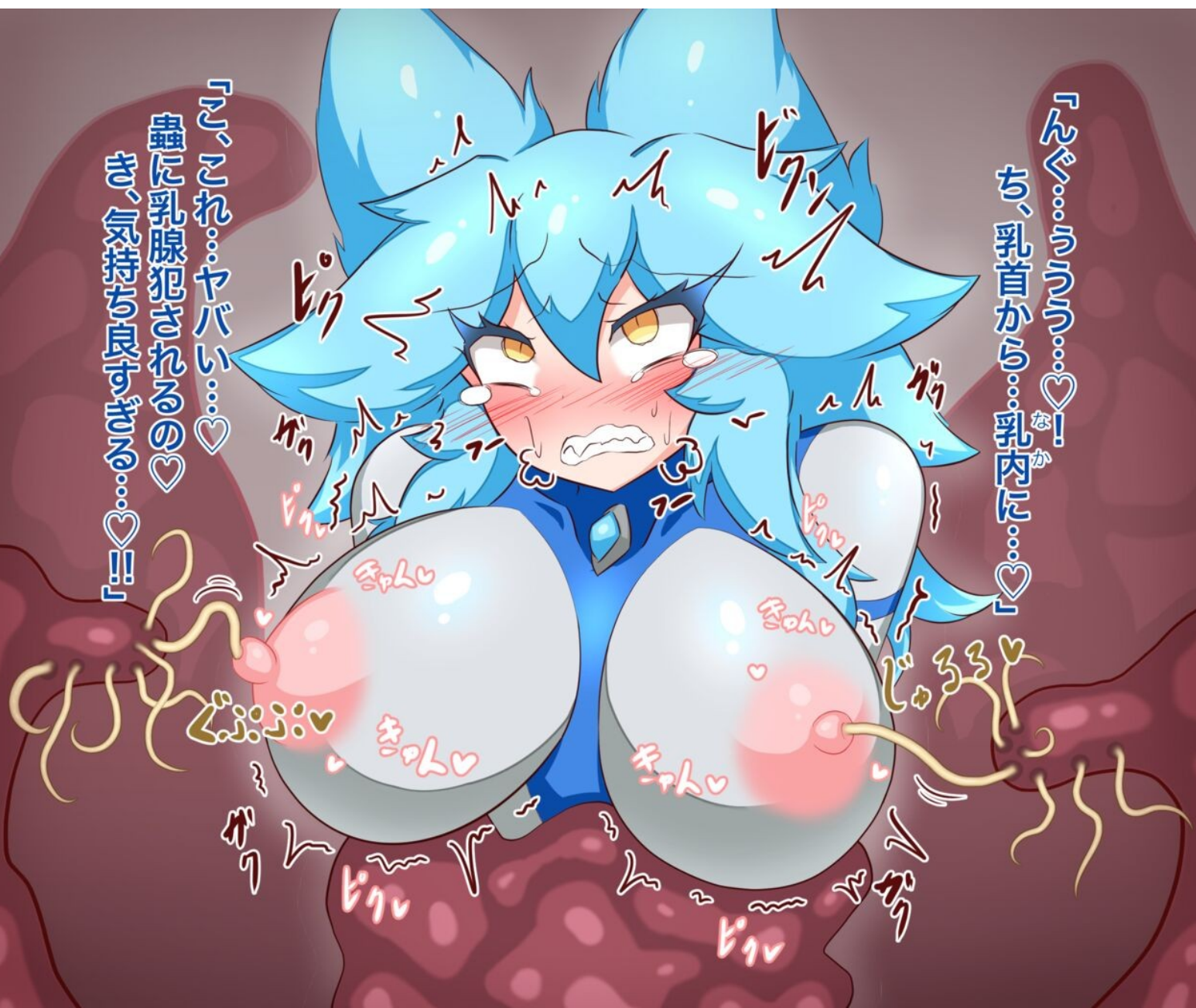


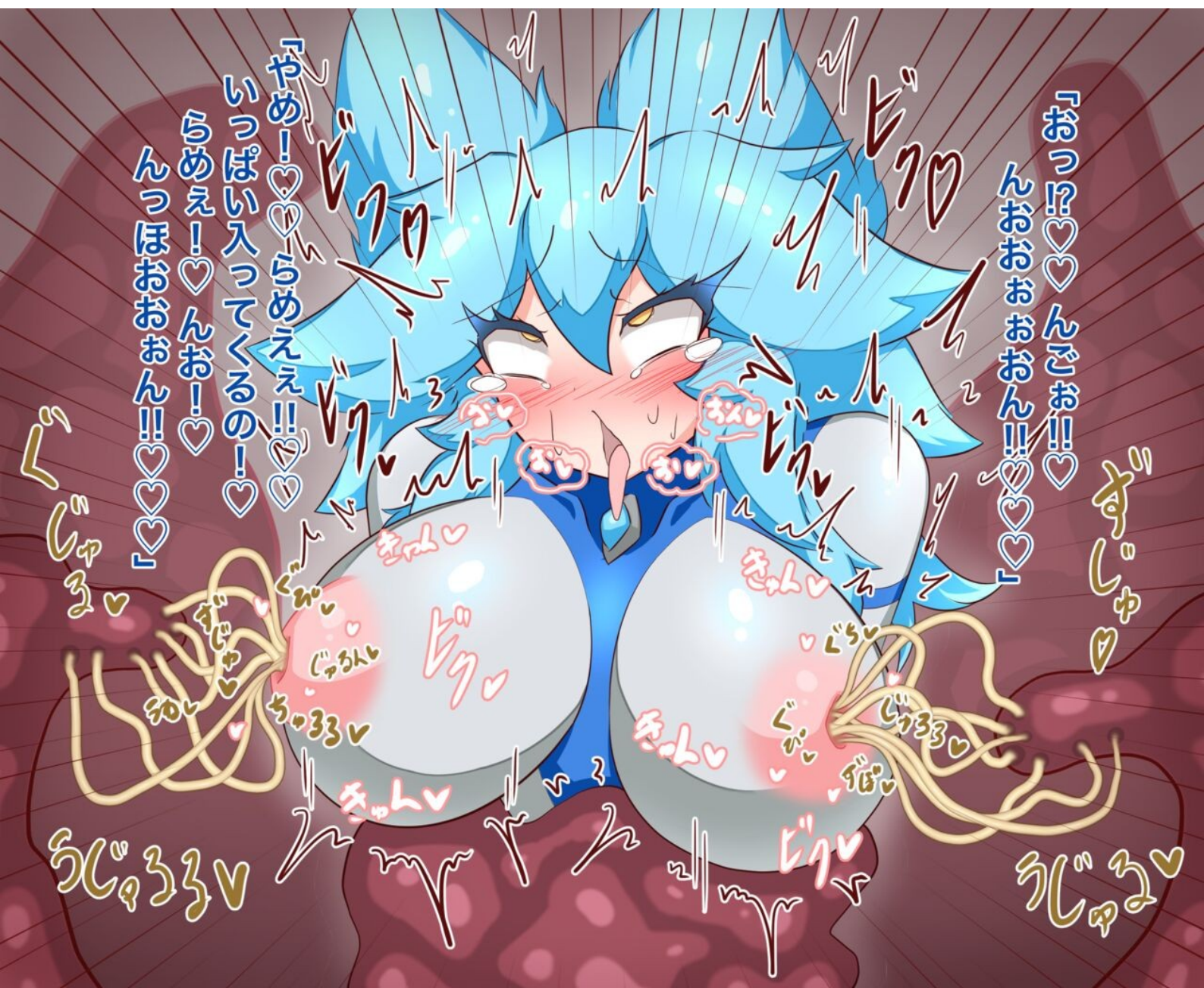




「んぐ…うづう…♡!
ち、乳首から…乳^な肉^かに…♡」

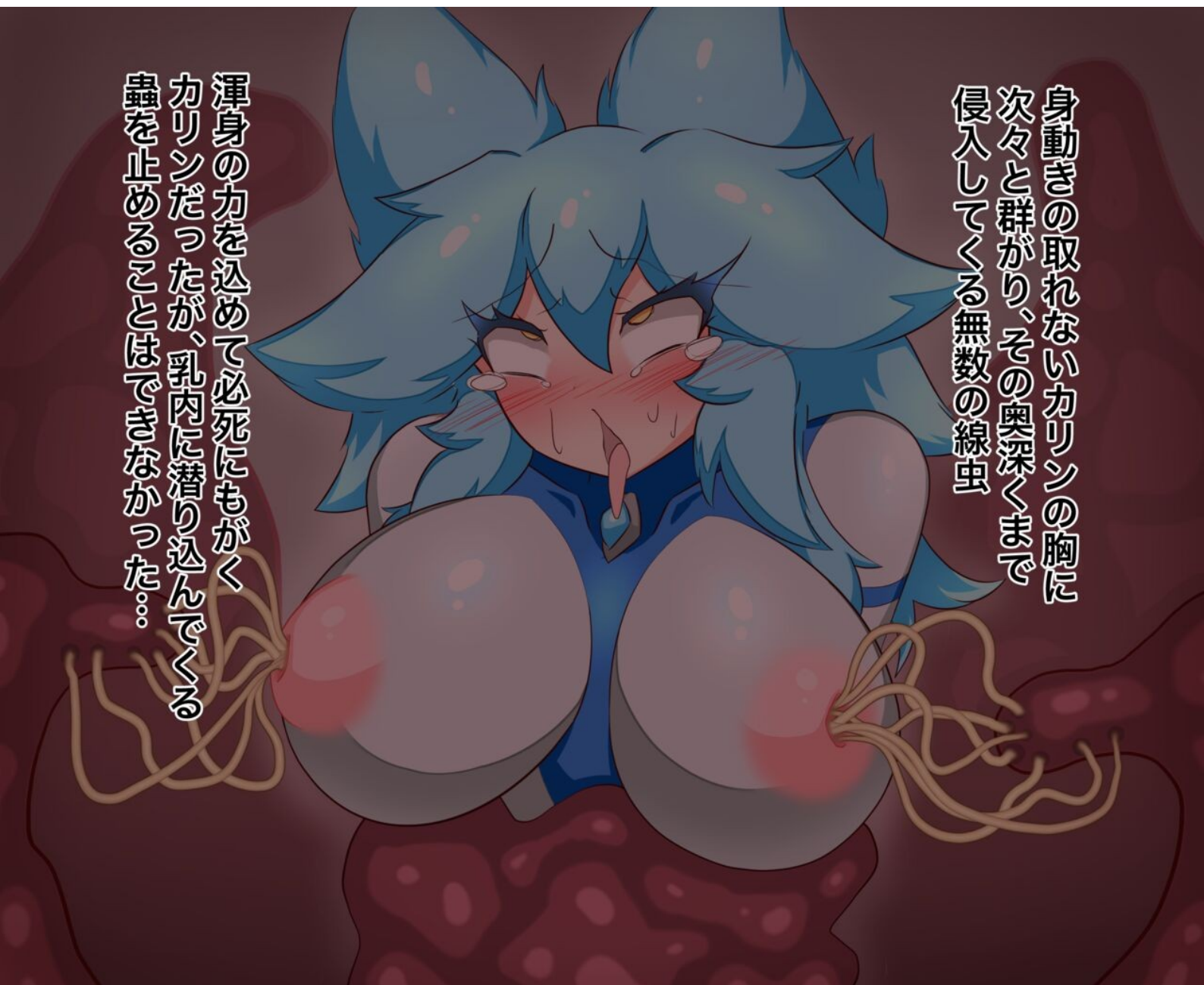
「ご、これ…ヤバい…♡
蟲に乳腺犯されるの♡
き、気持ち良すぎる…♡!!」





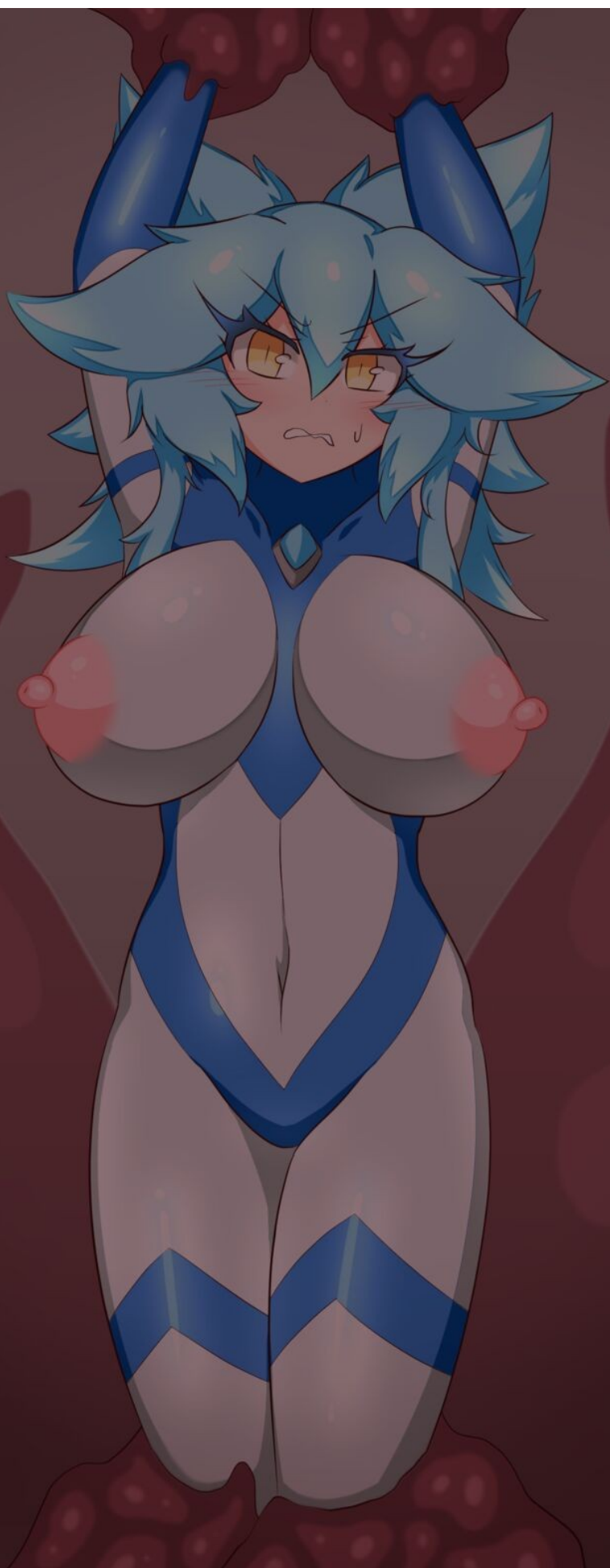
身動きの取れないカリンの胸に
次々と群がり、その奥深くまで
侵入してくる無数の線虫

渾身の力を込めて必死にもがく
カリンだったが、乳内に潜り込んでくる
蟲を止めることはできなかった…





胸を大量の線虫に犯され、
寄生されてしまったカリン



抗えがたい快感に吞まれて気絶していた
彼女が目覚めると、目の前には
襲撃者、「コレクター」が不敵な笑みを浮かべていた…

「うふふ、初めましてカリンさん。」

先ほどの喘ぎ、とっても可愛らしかったですよ」



「ーっ！お前は、さっきの...！」

「くそっ！アカネ達を何処へやりやがった!?
いったい何が目的で、こんなことしやる!?」



「あらあら…質問は一つずつでないとダメですわよ?
でも、愛しいヒロインのため…答えて差し上げますわ」

「では失礼して…んちゅ♡」



「んむうっ!?

むぶっ…っ…っ…っ!!

むちゅ♡♡

「んぶえ！ぺっぺっ！
い、いきなりなにしゃがる!!」



「ふふ♡これが『目的』ですわ。…ああいえ
目的の『ひとつ』、というほうが正しいでしゅつか」

「最優先命令はジュエルヒロインの捕獲ですが
あなたは特別…私の『コレクション』の一つ
として、丁重にお迎えさせていただきますわ♡」



「はぁ…?こ、コレクション…?な、なにを言って…」

「……はっ？…え、な、なんだよ…これ…！
お、オレの体が…右になってく…!?」

「うふふ♪その表情…そりますわぁ♡
驚かれましたか？それが私の『能力』ですわ」



「や…いやだ!! やめる! やめてくれえ!!
な、なんでもするから!! お願ひ! やめてえ!!」

「……っつふふふふふ! ♡ たまりませんわあ! ♡ ♡
必死に命乞いするその哀れなお姿…最高ですわよ ♡ ♡ ♡」

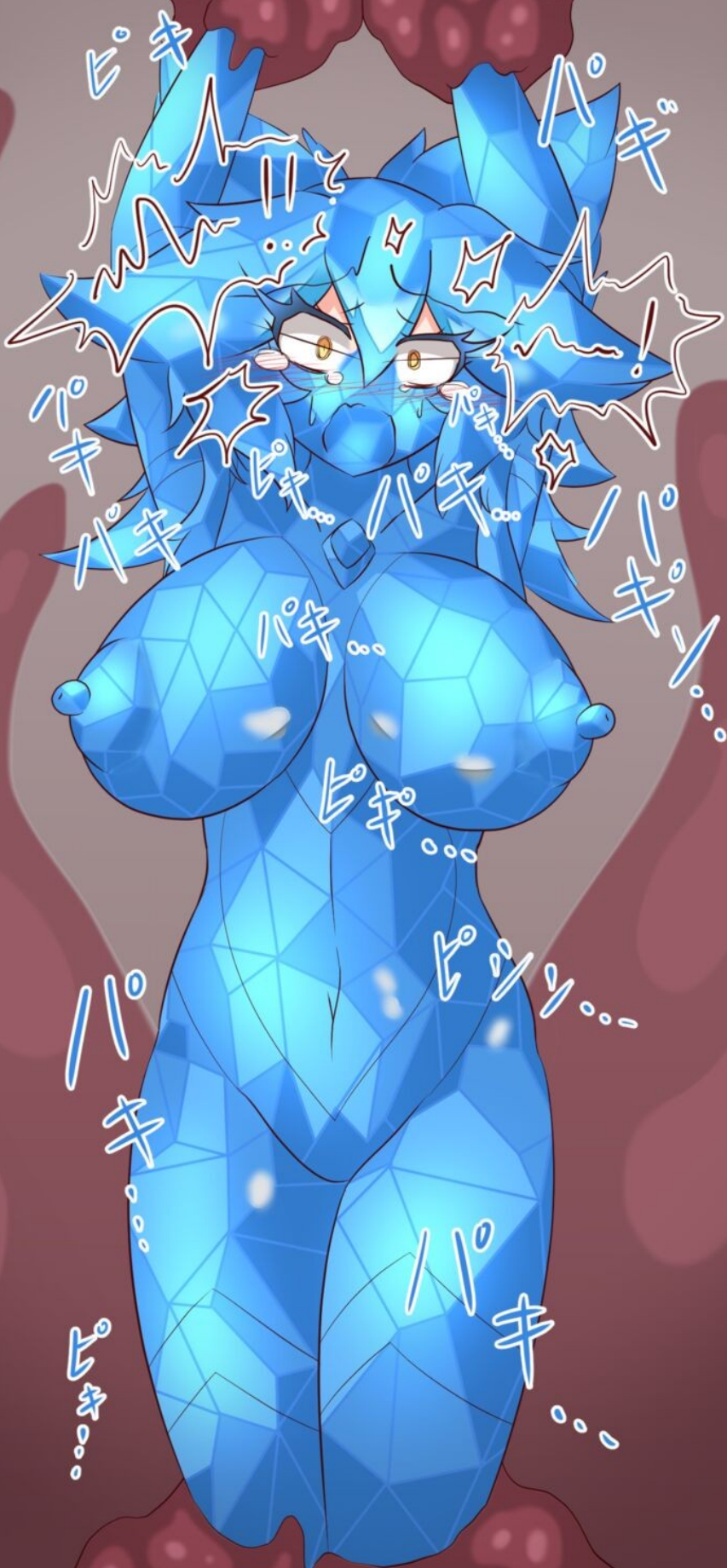


[illegible]

「あーっ!?」

「あら？ お口が宝石になってしまっっては息が
できませんわね。お辛そうに…でもご安心を。
もうじき全身が宝石に変われれば、楽になりますわ♡」

「――!!――っっっ?」
「――っっっ――!!」



「ふふふふ♡♡窒息しながらも必死に
目で『たすけてくれ!』って訴えていますわね♡
もちろん、やめてあげませんけど♡うふふふふふ♡♡」

「っっっっっっっっっっっっ!!」



「あらら♡目元まで宝石化が進んでしまいましたわね♡
ここまできたらもう助かりませんわよお…うふふ♡
最後の最後まで、しっかりと観察いたしますわあ♡♡♡」





「.....」



「とうとう全身が変質いたしましたわね♡……ああ!!♡♡
なんて美しいのでしよう!!♡他のヒロイン達を片付けたら
私のお部屋の特等席に置いてあげますからね♡♡♡」



コレクターの襲撃によって分断されてしまったアカネ
彼女は精液沼から這い出してきた触手に捕まり、
沼の中へと引きずり込まれてしまっていた

手足や首を凄まじい力で締め上げられ、じわじわと
体力を奪われる。さらに、精液沼の中では彼女の主力である
エナジー攻撃が使えない…かなりまずい状況だ

「んん…！むっ…ぐう！」

オジ…

（だめ…！この触手、全然解けない！
首が、締め付けられて…く、苦しい！）

か
は…

ギ
ジ…



ず...
(うう...だめ...!!)
どんどん締め付けが強くなる!
私一人の力じゃ、抜け出せない...!!
こ、このままじゃ...

ぴち...

キラ...

キラ...

ちゅ...

じゅる...

ずる...

じゅる...



(な、なにこれ…!? せ、『精子』っ!?
うそ、大きすぎる…。…っ! 待って、まさか…!?
や、やだ…やめて! やめてやめてやめてえ!!!)





「んほおおおおお!!♡♡♡♡♡」

ドフ!

ドフ!

ちゅん♡

ごは!

かぼ...

ドフ♡

ドフ♡

ちゅ♡

か

じん♡

ん♡♡

くぼん♡

(いやああああ!!♡♡♡せ、せーし:せーしがあ!♡
体の中につ潜り込んでくるうう!?!♡ん:おおん!!♡♡♡
やめ:やめてええ!!♡んああ!!♡おごおおん♡♡♡)





うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!

うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!

うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!

うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!

うじ
んげ
おげえ!
うじ
んげ
おげえ!





(……んぶう……♡お、おげえ……♡♡な、なか……♡
せーし♡おつきいせーしで……いっぱいい……♡♡
じゅ、受精……♡♡全身じゅせい……♡♡んごぼおお♡♡♡♡)

ぼ
て
♡



精液沼の中で大量のおぞましい巨大精子に
体中を犯されてしまったアカネ

このまま沼の底で苗床に堕ちる運命かと思われたが、不意にクラゲ型SCの拘束が解かれた

不可解な開放に戸惑ながらも、アカネは必死に泳いで、なんとか陸地に避難することができた















体内エナジীর結晶である尻子玉を抜かれ、
エナジীর回路を狂わされてしまったアカネ

エナジীর制御が行えず、立ち上がることもさ
でなくなつた彼女のそばには、いつの間にか
コレクターが近づいてきていた…

「うふふ、どうやら、ことは予定通りに進んだ
ようですわね。精液沼の中で弱らせたのち、
尻子玉を抜き取つて完全に無力化…
ふふふ、我ながら完璧な作戦でしたわ♡」

そう、すべてはコレクターの策略だったのだ
カリンに続き、アカネまでも彼女の手に堕ちてしまった

残るヒロインはあと一人
チームのリーダー、ジヨデイのみだ…



チームのリーダー、ジヨディは襲撃による分断後、
コレクターにけしかけられたSCの群れと戦っていた

ベテランヒロインであるジヨディは、劣勢であるにも関わらず
的確にSCを処理・殲滅してみせた

しかし、他のメンバーへの心配が先に立ってしまい、
倒した敵の体内に潜んでいた蛞蝓型SCに気づかず、
その隙を突かれ、体中に纏わり付かれてしまった…



「早く2人を助けに行きたいのニ……」

「くっ……!!
油断しました……!!」

うじゅ……

ハハ
ハハ

ハハ

くちゅ

くちゅ
くちゅ
くちゅ

うじゅ

じゅる……

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

ひた……

ひと……

じゅる……

うじゅ

くちゅ

うじゅ



「払っても払っても...
キリが無いわ!」

「...ウウ! この...
ナンてしつこさ...!」

うじゃ...

ギリ...

ぐちゃ

ぐちゃ

じゅ

ひと

ひた

うじゃ

うじゃ

ぐちゃ





「乳首ノ穴から：
は、入って来ル!?」

「オ...な、ナニ!?
何かガ...胸に!」

「オッ!」

「オオ...」

「くちゅ...」





「どんどん奥に…
潜り込んでくる!!」

「…! くうう…!!
き、来て、るん…!!」







「マズい……! は、早く
発動しないと……!!」

「ウツ……!? く、管が
奥に当たっテ……!」







「ハア…ハア…
な、なんとか
振り解けタ…」

「また襲われル前に
早ク…2人を助けに
行かないと…!」



大量のエネルギーを消費して
なんとか窮地を切り抜けたジヨディ

しかしこの時、彼女は自身の乳内の違和感に気付けなかった…

このわずかな見落としが、数分後の「惨たらしい敗北」へと
繋がってしまう、致命的なミスだとも知らずに…



蛞蝓型SCをなんとか振り切り、ついに
コレクターと対峙したジヨディ

豪華絢爛な衣服を纏う襲撃者の足元には
変わり果てた後輩達の姿があった…



「ふふ、ようやくお会いできましたわね。
あなたで最後…お覚悟はよろしくて？」

「カリンちゃん！アカネちゃん！
っ…よくも2人を…!!許しません！」

たっふ♡

ぷり♡

ぷ、るん♡



「あら、無茶はいけませんわよ？ あなた…
先の戦いでほとんどエナジーを
使い果たしているのではなくて？」

くっ…

「…！ さっきのSC達…あれもアナタの
仕業だったのデスね。卑劣な…！」

たっハハ♡

ぷり♡

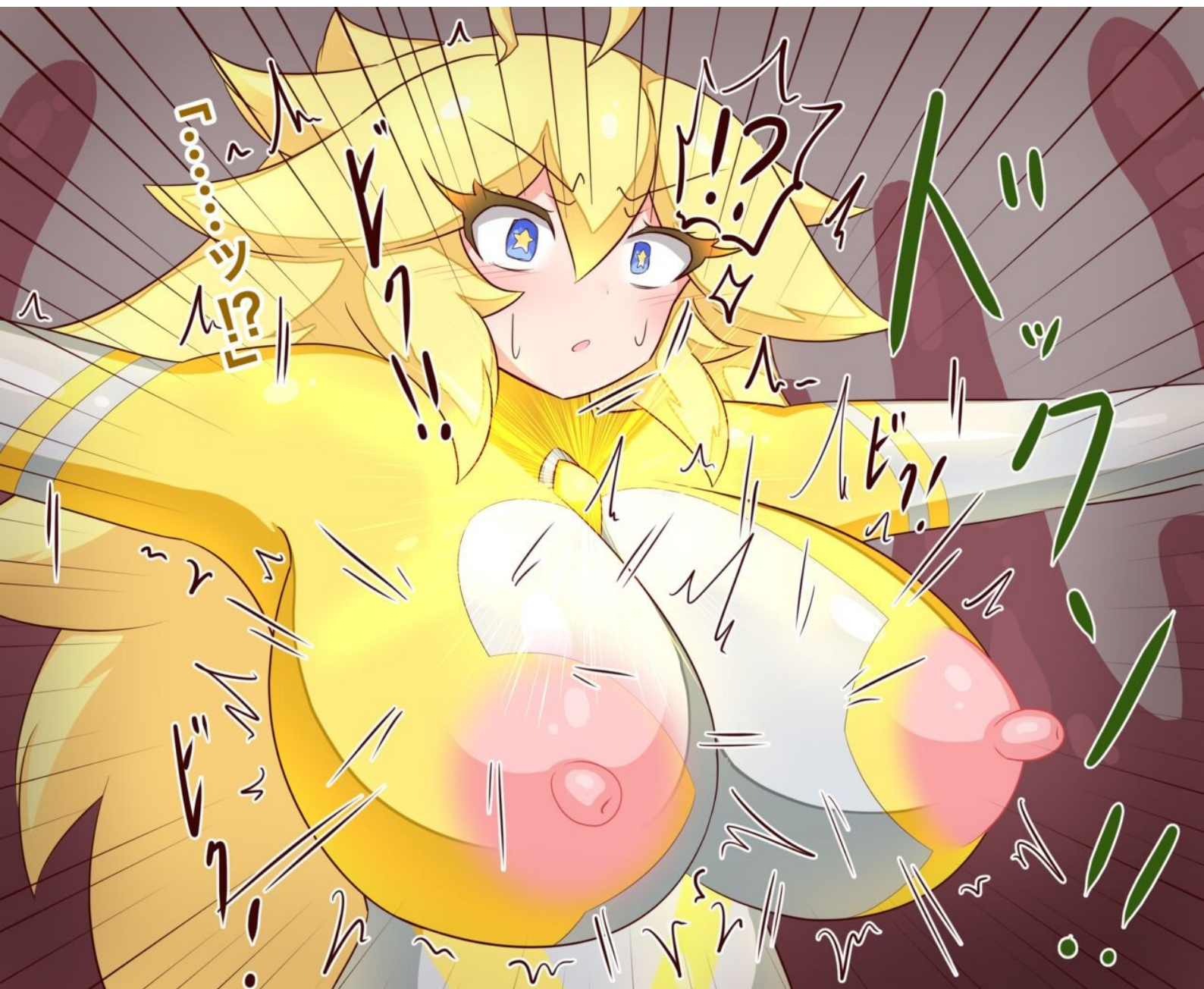
ぷっ、るん♡

っん♡

「それでも…諦めるわけにはいきません！
たとえ刺し違えてデモ…
アナタを倒して、2人を救いマス！」

「ふふ…！ それでこそジュエルヒロインですわ！
…ですが残念…。あなた、もう
『終わっている』のですわ…。」







「な、ナニ...? 今、胸が跳ねて...
...! か、勝手に動いてる!?!」

「あらあら、ついに始まりましたわね♡
実は、あなたのそのとても大きな胸...
既に『ロイコ』に侵されているのですわ♡」







「なっ…ナな…ナニツ!?
わ、ワタシの胸が!」

ぞわ

(No…)

「うふふふ♡♡その顔、とっつても可愛い♡
それが『ロイコ』ですわ。アナタ達ヒロインの
乳房に寄生し、そのまま乗っ取っちゃうんですの♡」

ぶりん

うぎ…

うぎ…

じゅ…

ぐい…

ぶじゅん

どかん!







「あつ...!? オオ...♡
お♡オオ!?」

「くふふ♡ ああ醜い♡
最高に気持ち悪いですわあ♡」

ぴく♡

むに♡

ぐに♡

じに♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

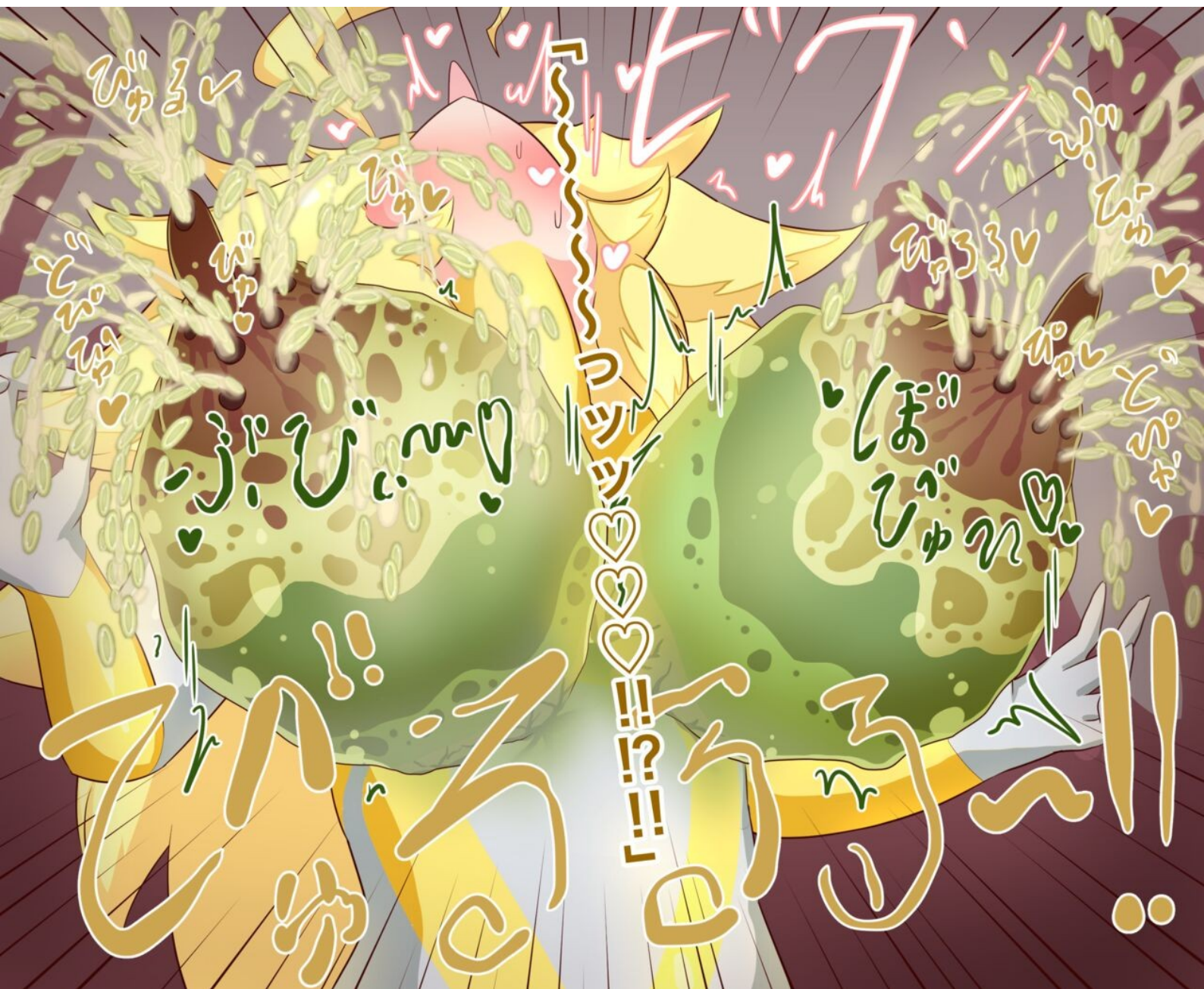


ひびい♡!! ま、また
うごいデ...んぎい♡!!
イギイい♡!!

「あら♡勝手に動かれて
気持ち悪いんですわね♡
かあわい♡♡」













「あらら♡快感が

強烈すぎて

気絶しちゃって

ますわね♡」

「お可愛そう…」

せめて他の2人と

一緒に並べてあげましょうかね…♡」

とろ…♡

プリ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

ぷりゅ♡

ぐにゅ♡

とろ♡

とろ♡

とろ♡

とろ♡

とろ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

うじゃ♡

「……コレクター、状況は？」

「目標は3人とも捕獲完了。約束通り、1人は私のコレクションにさせてもらいましたわ♪

ただ…トパーズの子のロイコ侵食が予想より深刻でして…『材料』として使うのは少し難しそうですね…如何致しましょう？」

「問題ないわ。細胞が生きてさえいれば充分よむしる五体満足でいることの方が嬉しいわ

それにしても…ジュエルヒロインをまとめて3人も捕らえるなんて…流石ね、コレクター
やはりあなたを向かわせたのは正解だったわ」

「うふふ♡身に余る光栄ですわ。では、これよりすぐに帰還し、この子達を貴方様に捧げますわね」

「ええ、楽しみに待ってるわ。早く帰ってきてね」

…プツッ

その後、彼女達の行方を知るものは1人もいなかった…









